

長野市における眺望景観の分析

平成 27 年 2 月 杉浦 拓磨

要旨

目的

近年、人々の生活環境に対する意識は量的なものから「ゆとり」や「うるおい」といった質的なものへと変化している。長野市の景観計画の中の、良好な景観の形成に関する方針の一つである『美しい眺望景観を誘導する』では、山々や市街地を俯瞰できる大切な眺望ポイントの整備を課題としている。本研究では、地形的情報を用いて、長野市らしさを感じることのできる潜在的視点場の分類・提案をすることを目的とした。

方法

本研究では、行政資料や観光パンフレット等から、ケヴィン・リンチの「都市のイメージ」を考慮し、視対象を選出した。それらの視対象を探索開始点として、可視・不可視分析を行った。その結果を用いて、眺望できる視対象の分布に対して主成分分析を行い、市内の眺望景観の傾向を把握した。さらに、この主成分得点に対して非階層的クラスター分析を行い、眺望景観を類型化した。また、類型毎の代表点を決定し、各類型の眺望特性を導いた。

結論

本研究では、標高データから「長野市らしさを演出する視対象」を視点とする可視領域を求めた。その可視領域の分布および可視頻度の情報から、長野市の眺望景観として 10 類型が求められた。長野盆地内の最も多くの視対象の目標点を眺めることができるクラスターでは、俯角が大きく見下ろす眺望となっていることや、視距離の長い遠景域での可視地点が多いことが特徴である。このように、可視領域から視対象がどのような組み合わせで見えるのか、どのような見え方をしているのか等、各類型における眺望景観の特性を導くことができた。また、代表点による現地踏査の結果から、クラスター分類の有意性を確認することができた。これらの結果は、これからの長野市の眺望ポイント整備における基礎的な情報として利用することができ、新たな景観資源の発掘につながると考えている。